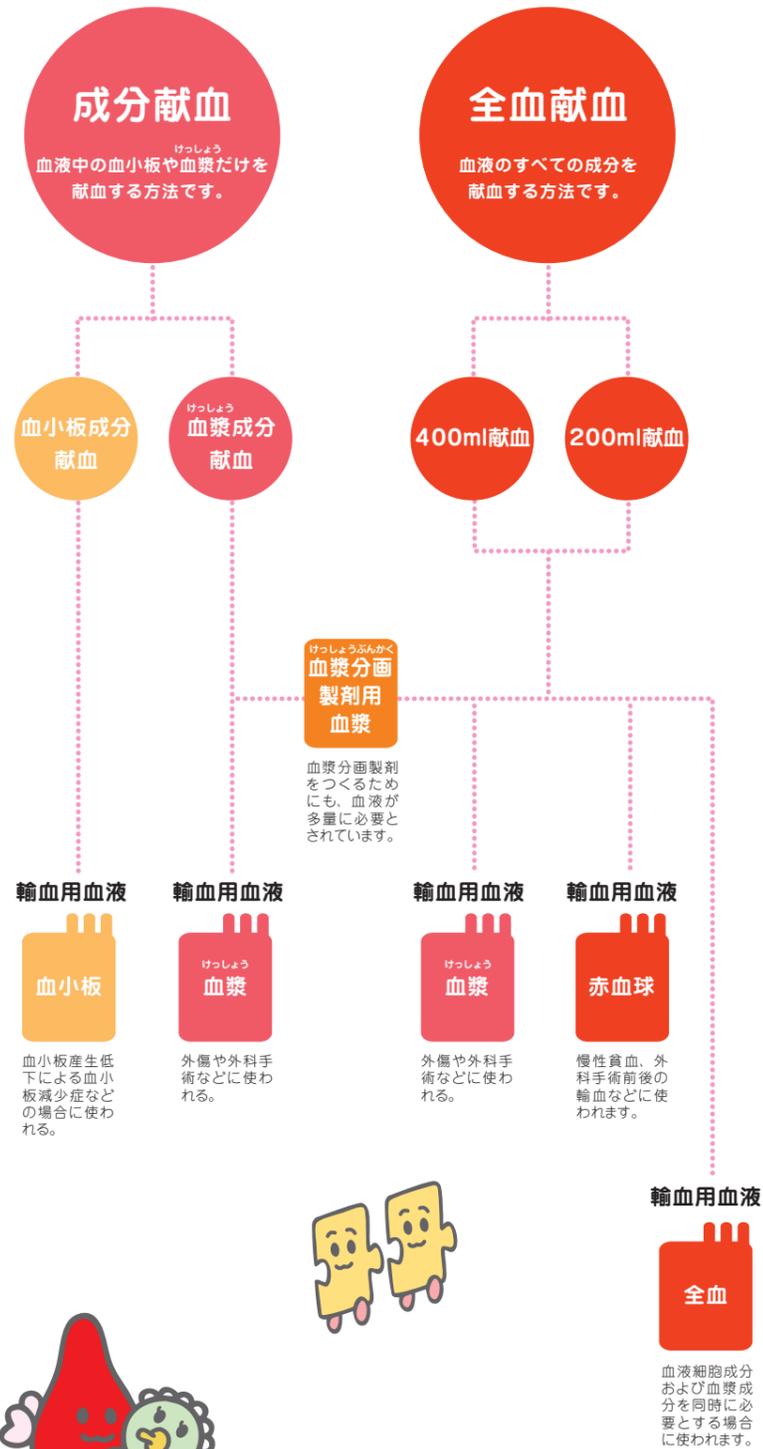


■献血の種類

献血の採血方法には、すべての血液の成分を採血する全血献血と、必要な血液の成分だけを採血する成分献血があります。
全血献血は、1回の献血での採血量で、400ml献血と200ml献血に分けることができます。

また、成分献血は採血する成分の種類で、血漿成分献血と血小板成分献血に分けることができます。それぞれの献血からつくられる血液製剤は異なり、その種類は図の通りです。
これら血液製剤は自国での自給

自足が望ましいとされています。しかし、血漿分画製剤の一つであるアルブミン製剤は自給率が約50%（平成16年度）であるなど、海外に依存している製剤もあるため、みなさんの協力が必要とされています。



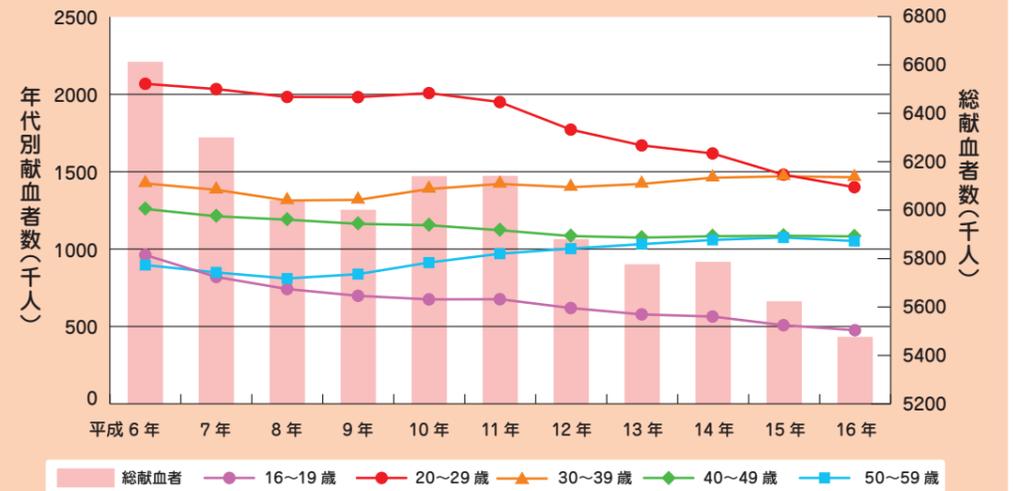
いま、献血のいちばん大きな問題は何かと思いますか。

その答えは、献血に協力してくれる若い人たちが減っていることなんです。近年の献血者推移を見てみると、29歳以下の献血者が減少していることが分かります。（グラフ1）

また、平成17年4月に血液が非常に少なくなり、みなさんに献血のお願いをしたことがありました。その際、多くの方の協力で必要な血液が集まりましたが、若い人たちよりも中高年の方たちの協力が目立ちました。（グラフ2）

これからの日本を背負っていく若いみなさんに、献血のことをもっと知ってもらい、もっと献血に協力してほしいと思います。

1. 献血者の推移



2. 年度別赤血球在庫の推移

